

## 地域外の建設企業との連携への取組（なでしこ BC 連携）

（株）大竹組 正会員 ○橋本 美春 （株）井上組 正会員 井上 惣介  
（株）福井組 正会員 福井 和也 徳島大学環境防災研究センター 正会員 湯浅 恭史

### 1. はじめに

四国では、近い将来発生することが予想されている東南海トラフ巨大地震等の自然災害に備えた対策を地元建設業者は、BCP（事業継続計画）の策定をはじめ、より実効性の高い災害対応力の強化を図るべく、様々な取り組みを行っている。徳島県内においては、平成 26 年度から「なでしこ BC 連携」と称し、徳島県内の志を同じくする建設業者が連携し、災害対応力を向上させるべく取り組みを進めている。

しかし、東南海地震の発生確率が高まるにつれ、四国は四方が海に囲まれていることから孤立状態になることが懸念され、四国地域内だけでは災害対応力に限界があることから、災害対応に必要な燃料・資機材・食料等の相互支援のため、地域外の建設業者との連携が、災害対応力向上につながるのではないかと考えた。本稿では、地域特性や営業特性の異なる業者間において、連携を目的とした計画・合同訓練の取り組みについて、報告する。

### 2. 連携における取り組み

#### (1) 徳島県内での連携

なでしこ BC 連携は、徳島県つるぎ町の（株）井上組が平成 26 年の大雪の際、社員が疲弊しながらも災害対応に追われた経験から、災害対応時の他地域からの受援の必要性を感じ、徳島県鳴門市の（株）福井組と取り組みを始めたものである。まずは「連携の相手を知る」ことから取り組みを始め、お互いの工事現場の見学（工事現場安全パトロール）を行い、相互理解を高めることを目的とし、（株）井上組が 10 年前から実施している女性社員による現場安全パトロール「なでしこパトロール」を、（株）福井組の現場で実施した。なでしこパトロールを通じて、連携企業の営業拠点への交通経路の理解や社員同士による意見交換を行い、相互理解を深めていった。当初は、2 社から始めた取り組みに、徳島県牟岐町の（株）大竹組が参加し、平成 27 年 9 月に 3 社で初となる第 1 回災害支援合同訓練を（株）井上組の脇町堤防工事現場「なでしこパトロール」において「緊急時連絡訓練・支援訓練」及び「炊き出し訓練」を実施した。

#### (2) BC 連携のさらなる展開

平成 28 年 6 月には、徳島県内の建設業者 7 社、飲食業者 1 社、岡山県内の建設業者 2 社、和歌山県内の建設業者 1 社との BC 連携提携へ発展し、第 2 回災害支援合同訓練を（株）井上組の脇町堤防工事現場にて実施し、これにより、徳島県内だけでなく四国外の建設会社との連携が構築され、災害時における更なる対応力向上に大きな期待が広がった。平成 28 年の BC 連携組織図を図-1 に示す。この訓練では、BC 連携企業間の安否確認訓練や炊き出し訓練を実施した。「なでしこパトロール」も実施し、現場の安全衛生面や作業環境



図-1 BC 連携組織【平成 28 年度】



写真-1 第 2 回災害支援合同訓練

整備を女性目線でなでしこパトロールを実施した。訓練後は、合同訓練の反省会を開催し、「安全」、「品質」、「連携 BC」、「女性雇用・環境」の4分科会を開催し、それぞれの担当部会で意見交換会を行った。当初は災害時各会社の地域特性や災害リスクが異なるため、短所を補うことができれば事業継続につながるという考えから始まったが、災害対応だけでなく平常時から多様な共通の課題を連携して取り組むことにより各会社の企業力向上へつながる取り組みに変化しつつある。第2回災害支援合同訓練を写真-1に示す。

平成28年11月には、国土交通省を中心にICT技術を前面活用し土木工事を行うi-constructionの導入が進められ、(株)福井組の現場にて導入しているICT技術の現場見学会を行うとともに、BC連携企業による「なでしこパトロール」を実施した。女性の為の土のう製作体験もあり、初めての体験する者が多く貴重な経験になった。ICT施工見学会・パトロールを写真-2に示す。平成29年2月には岡山県でも訓練等が実施され、着実に連携先との交流・意見交換が進んでいる。



写真-2 ICT施工見学会・なでしこパトロール

### 3. BC連携を通じて取り組めることの発見

平成26年度から本格的なBC連携を開始し、合同訓練や意見交換会を行った。活動を通じて、女性でも出来ることがあることが数多く見つけられた。災害対応時の最前線には男性の力が絶対的に必要だと思われるが、安否確認や情報収集、連絡調整等はいかに活躍できる場があり、災害時の各企業の経理面でもバックアップ体制が整えられると考えられる。また、炊き出しでは、女性の存在は必要不可欠であり、期待してもらいたいところである。また、女性目線での「なでしこパトロール」を通じて、普段では全く交流のない女性社員の意見交換が出来たことも、災害時の自分の役割を考える場になっている。

さらに、他社の現場見学で得られた事を自社の現場に取り入れることができる事があり、絶対に目につく安全標語をトイレに掲示したり、防音装置を設置したりするなど自社の現場にも反映している。

### 4. 今後の課題

このように、なでしこBC連携を通じて、災害時の対応体制を構築している。将来も企業を存続させるために、この連携において、どのような取り組みを行えば、各企業の企業力向上につながるのかを今後の課題として示す。

- ・合同訓練を行うことにより、各企業の事業継続力強化
- ・各企業が抱える様々な課題に対応する企業訪問・分科会等による意見交換、ベンチマーキング
- ・「なでしこパトロール」実施による工事現場の安全衛生面・作業環境の整備
- ・「なでしこパトロール」を通じての、建設業の若年者・女性雇用の促進
- ・現場見学会による施工能力向上

共通の課題に取り組むことで、各企業の企業力向上を目指し、連携強化を進めていく。

### 5. 謝辞

徳島大学環境防災研究センター 中野晋先生には、本論文の作成についても多くのご示唆を賜りました。記して謝意を表します。